

2026年7月29日掲載 河北新報

E パ ー ソ ン

第一貨物（山形市）の社長に4月1日付で就任した越智史朗氏は、全国的に不足するトラックドライバーの確保を最重点課題に掲げる。業務効率化を進めるため、同業他社との協業を積極的に進める考えだ。

「最優先課題は何か。」

「構造的なドライバー不足が深刻で、従来通りのサービスを提供できなくなる。ピーク時には約4500人に上ったが、現在は3000人。需要があっても人が足りない状況だ」

「国は4月に物流効率化法を改正し、労働条件改善

同業他社と協業推進

第一貨物（山形市）

越智 史朗 社長



おち・しろう 東北大卒。1987年、三菱倉庫入社。福岡支店長、執行役員企画業務部長を歴任し、2023年に第一貨物取締役。専務輸送事業本部長を経て26年4月社長。61歳。愛媛県出身。

効率化図り物流安定

のために適正な運賃を收受できる環境を整えようとしている。この流れを追い風に、給与引き上げなどで採用増と離職減を目指す。人材は山形県天童市の研修施設で育てる。物流専門校を併設し、入社から1年間の運転の基礎から学べる環境

があることをアピールしていく」
ートラック約3500台、約110拠点の規模で東北運輸業界を主導する。「複数企業の荷物を混載してコスト削減を図る特別積み合わせ貨物輸送（特積み）が主力だ。東北は人口

減少や少子高齢化のスピードが速く、扱う荷物が減ることになる。同業他社と協業して効率的な事業運営を行い、安定的な物流サービスを提供する」
「仙台圏を中心に半導体など先端産業の集積が進む。東北を代表する物流の

「なぜ協業化なのか。」
「特積みは全国ネットワークを構築するため、北陸3県の配達はトナミ運輸（富山県）に任せるなど、多くの他社と提携している。人件費や燃油コストのみならず新規の建設コストも高騰し、共同投資などのコストシェアリングも必要だ」
「イラン情勢の影響は。」「軽油は国の補助金で改善し、エンジンオイルも供給懸念が後退しつつある。むしろ荷量への影響が心配だ。石油関連製品の先高観や品薄感による前倒し購入、駆け込み需要に伴う荷量増が6月以降は収まった。物流は経済を映す鏡。4、5月の反動減が起きないか心配している」

プロとしての誇りと責任を持ち、確かな物流ネットワークを通じて地域経済の発展に貢献したい」
「東北では特積みの到着貨物が多いが、発送は少ない。各地の1次・2次産業にあらゆる物流サービスを的確に、タイムリーに提案できる体制の充実を図る」

（藤原陽）